

2024年春季特別展  
古代ガラス—輝く意匠と技法



碗

東地中海地域 前2—前1世紀 H6.6cm×D10.4cm

この作品は制作当初は薄茶色の碗であったが、外側を覆うプラチナに輝く銀化と、それが取れた下地に現れる葡萄色とグリーンの組み合わせが、出色である。

銀化とは経年によりガラスの表面が層状となり、光を様々な屈折させる現象で、いわば時が与えた偶然の産物なのだが、人間には思いも及ばない色彩を呈し、やはり自然にはかなわないとの思いを抱かせるほどの、美しい輝きを見せる。

MIHO MUSEUM（滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300 館長：熊倉功夫）は2024年（令和6年）3月3日（日）～6月9日（日）までの期間、春季特別展「古代ガラス—輝く意匠と技法」を開催いたします。

古代、ガラスは宝石のように尊ばれていました。MIHO MUSEUMが数多く所蔵する古代ガラス作品を各文明ごとに展示します。ビーズやコアガラス、モザイクガラス、カットガラスなど色も輝きも様々な古代ガラスをお楽しみください。

また、レストランでは、スープ仕立てにした桃谷そばなどの春季限定メニューをご用意しています。

## 開催概要

### ◆ 開催主旨

MIHO MUSEUMにはガラスが宝玉であった時代の、美しい装身具や器が多数収蔵されています。この度はガラスとその関連作品を200点あまり展示し、古代のガラス文化を各文明ごとにお楽しみいただきたいと思います。

ガラスを発明したと考えられるメソポタミアから東地中海沿岸では、3400年ほど昔に、石をくぼめた型に入れて焼き上げた青ビーズや、粘土のまわりにガラス紐を巻いて器にするカラフルなコアガラスが作られました。

古代エジプトにガラスが伝わった新王朝時代、エジプト王家はガラスを独占しました。「ファラオ一族御用達」のガラス工房が宮殿内に存在し、王族でなければガラスを手にはできません。そのかわりファラオであったツタンカーメンのお墓には、大量のガラス製品が納められていました。

続いて、水晶のように透明なガラスを尊ぶ時代がやってきます。2400年ほど前に、インドの西側からエジプトまでを支配したアケメネス朝ペルシャ帝国の宮殿では、宴会に透明ガラスの器が使われたと想像されています。それらは金属同様に鑄造で作られていました。

そうしてガラス技法はウナギ登りに進歩します。モザイクガラス、カットガラス、垂下による造形、そして古代ローマ時代直前に、とうとう今日に続く吹きガラス技法が発明されました。

展覧会にならぶガラスの輝きと共に、それらを生み出した職人たち、そして器を愛でた各文明の立役者たちに、思いを馳せて頂ければ幸いです。

◆ 展覧会名：2024年春季特別展「古代ガラス—輝く意匠と技法」

◆ 英語タイトル：Ancient Glass Brilliant Design, Stunning Technique

◆ 会 期：2024年3月3日(日)～6月9日(日)

◆ 会 場：MIHO MUSEUM

〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300

TEL.0748-82-3411 URL: <https://www.miho.jp>

◆ 開館時間：午前10時～午後5時【入館は午後4時まで】

◆ 休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）

◆ 入館料：一般1300円、高・大生1000円、中学生以下 無料

【20名以上の団体は各200円割引】

◆ 交 通：JR琵琶湖線「石山駅」より帝産バス MIHO MUSEUM 行 50分、  
お車で新名神「信楽IC」より約15分

◆ 主 催：MIHO MUSEUM、京都新聞

◆ 後 援：滋賀県、滋賀県教育委員会、NHK 大津放送局、BBC びわ湖放送、  
エフエム京都、帝産湖南交通

◆ 担当学芸員：東 容子（MIHO MUSEUM 学芸員）

◆ 展示総数：約200件

- ◆ 展示構成：
- 第1章 古代エジプト ファイアンスと王家のガラス
  - 第2章 メソポタミアからエーゲ海へ ガラスの故郷
  - 第3章 東地中海の輝き アイビーズとコアガラス
  - 第4章 アケメネス朝ペルシャと周辺の国々 無色透明ガラスの出現
  - 第5章 古代中国 アイビーズと象嵌
  - 第6章 ヘレニズムからローマ時代へ 新技法オンパレード
  - 第7章 驚きのモザイクガラス
  - 第8章 ローマ帝国以降 日常のガラス器
  - 第9章 ササン朝ペルシャからイスラームへ カットガラスを中心に
  - 第10章 銀化の愉しみ

## イベント&プログラム

◆ 講演会

- 3月24日（日）「列品解説」  
講師：東 容子（MIHO MUSEUM 主任学芸員）
- 4月6日（土）「ガラスと文明」  
講師：谷一 尚（林原美術館 館長）
- 5月12日（日）「ペルシアのガラス」  
講師：四角 隆二（岡山市立オリエント美術館 学芸員）
- 5月26日（日）「ガラスの分析から見えてくること」  
講師：阿部 善也（東京電機大学 工学研究科 助教）  
村串 まどか（明治大学 理工学部 助教）

※各日とも

場 所：MIHO MUSEUM（美術館棟内）南館レクチャーホール

時 間：14:00～

予約不要、当日美術館棟受付にて整理券配布予定。

参加費無料（入館料要）

## 代表作品(すべて MIHO MUSEUM 蔵)

### キャプションの表記について

- ◆ 作品画像下に記載している表記のうち、作品名（ふりがなは不要）、作者名（ある場合）、時代、撮影者名（ある場合）、展示期間（ある場合）、所蔵者名（ある場合）と画像提供（ある場合）は必須です。  
上記以外は、スペースが可能であればご掲載ください。

### 本リリースに掲載の画像データ提供について

- ◆ 作品画像をご希望の際は、  
広報担当デスク（オズマピーアール：miho-prd@ozma.co.jp）にご連絡ください。



ファラオ頭部

エジプト 前14世紀前半



植物文ペンダントとロゼッタ文ビーズ

エーゲ海地域 前14-前12世紀



獅子頭形杯  
アケメネス朝ペルシア 前5-前4世紀



人頭形ペンダント  
地中海地域 ロードス島か  
前5世紀-前4世紀



長頸壺  
東地中海地域 前3-前1世紀



アラバスター文壺  
東地中海地域あるいはイタリア 1世紀



マイナス  
エジプト 前1世紀-後1世紀



ゴールドバンド壺  
東地中海地域 前1世紀



カメオ装飾杯  
おそらくイラン 9-10世紀



浮出円文切子装飾碗  
ササン朝ペルシア 4-6世紀



切子装飾瓶  
イラン 9-10世紀

## レストラン（レセプション棟）・カフェ（美術館棟）

農薬や肥料を一切使用しない 秀明自然農法\* で育てた素材を主に使用しております。素材の美味しさを是非ご賞味ください。すべて自家製によるメニューでご来場の皆様をお待ちしております。

レストラン Peach Valley 2023年 春 初登場の桃谷そば！ 本年も行います。

### 桃谷そば（白） For VEGAN & RAMEN style



愛情たっぷりに育てられた野菜で出汁を取り、白みそ仕立てのこってりスープ。春野菜で着飾ったオリジナル中華そばでございます。

自家製お豆腐と一緒に召し上がりください。

### 桃谷そば（黒） For VEGAN & RAMEN style

一方、こちらは完全 和風。  
昆布出汁と3種のこだわり醤油をつかい仕上げました。

こちらも、  
自家製お豆腐と一緒に召し上がり  
ください。



<NEW>

昨年（2023）の収穫から信楽産のお米を使用しております。農薬・肥料を使用せず土と生産者の愛情、そしてこの土地の歴史の詰まったお米を是非ご堪能ください。

\* 秀明自然農法について <https://www.snn.or.jp/>

## MIHO MUSEUM について

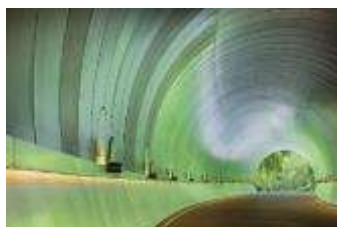
### ■ 自然・建築・美術品が調和した桃源郷

MIHO MUSEUM は 1997 年 11 月に琵琶湖の南、信楽の山中に誕生しました。建築設計は、パリ・ルーヴル美術館のガラスのピラミッドを設計したことで知られる I.M.ペイ。

枝垂れ桜のプロムナードを通り、銀色に輝くトンネルをくぐると、吊り橋の向こうに美術館棟が現れる設計は、中国詩に描かれた桃の花に導かれ洞窟を抜けた先に現れる楽園「桃源郷」をテーマにしています。

美術館棟は、建築容積の 80%以上を地中に埋設し、建物の上にも自然を復元しています。

フランス語版のミシュラン・グリーンガイドで「わざわざ旅行する価値がある」として三ツ星を獲得しており、2017 年には世界的ブランドのファッションショーの舞台ともなりました。



美術館棟へ続くトンネルは、枝垂れ桜の咲くころは桜色が映り込み、新緑の季節は緑色が反射して、季節ごとに楽しませてくれます。

### ■ コレクション・常設展示・特別展

所蔵品は、エジプト、ギリシア・ローマ、西アジア、中央アジア、南アジア、中国、朝鮮、古代アメリカなどの古代美術と、仏教美術、茶道美術をはじめ、絵画、漆工、陶磁器などの日本古美術をあわせて約 3,000 件からなります。

北館では、季節により国内外からの出陳を加えて、開館ごとにテーマ性を持った特別展を開催しています。

南館では、エジプト、西アジア、南アジア、中国・西域の 4 つのギャラリーで古代美術の名宝を展示しています。



南アジア展示室

### ■ 報道関係のお問い合わせ先：

MIHO MUSEUM 学芸部 広報：西郡 哲也、木曾 啓一郎

TEL. 0748-82-3452 (直) FAX. 0748-82-3414 e-mail: information@miho.jp

〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300

広報担当デスク：(株)オズマピーアール関西支社 担当：福村

TEL.06-6205-9800 FAX.06-6205-9801 e-mail: miho-prd@ozma.co.jp

〒541-0046 大阪市中央区平野町 2-4-9 淀屋橋 PREX10F

### ■ 一般の方のお問い合わせ先： MIHO MUSEUM (ミホ・ミュージアム)

TEL.0748-82-3411 FAX. 0748-82-3414 e-mail: information@miho.jp

<https://www.miho.jp> 〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300